

家庭用品等による 中毒事故を防ぐために

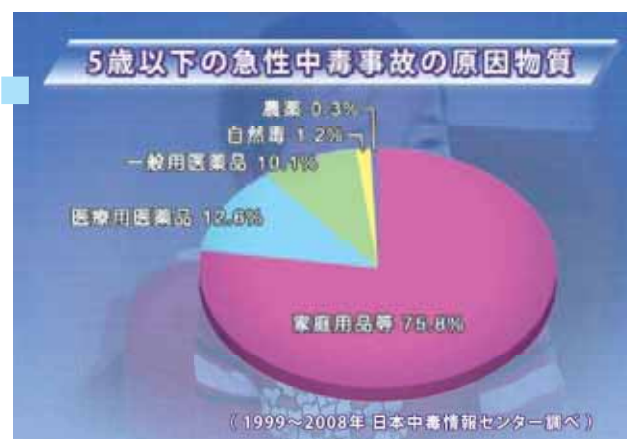


子どもの中毒事故にご注意ください。

中毒事故の電話相談を365日24時間受けている「日本中毒情報センター中毒110番」によると、5歳以下の子どもの急性中毒事故の相談は10年間に約27万件ありました。つまり、年間約2万5000件以上、1日に70件以上の相談が寄せられています。

子どもの中毒事故の7割は、 身の回りにある家庭用品等の誤飲

5歳以下の急性中毒の75%は、たばこ、乾燥剤、芳香剤、石けん、保冷剤などの家庭用品等によるもので、そのほとんどが口に入れる事故です。中でも、灯油やキャンドルオイル、除光液などの「石油製品」と「ボタン電池、コイン形リチウム電池」で症状の重い事故が発生しています。



● 石油製品による中毒事故



1歳前後の歩き始めの頃から、灯油ポンプやポンプ受けに溜まった灯油を口に入れることがあります。

注意!!

石油製品を飲んだ場合は、吐かせてはいけません。吐かせた時に、気管に入り肺に広がって重い化学性の肺炎を引き起こすからです。口をすすぐか、濡れたガーゼやタオルで拭き取り、異常がある場合は直ちに医療機関を受診しましょう。



● ボタン電池、コイン形リチウム電池による中毒事故

6ヵ月から2歳頃まではボタン電池、コイン形リチウム電池を口に入れる事故が多く発生していますが、もう少し年齢があがると鼻や耳に入れる事故も発生しています。電池が食道、あるいは鼻や耳に留まったまま電流が流れると、まわりの体の組織を壊します。使用済みの電池でも電流が流れるので危険です。直ちに医療機関を受診して、飲み込んでいないか、鼻や耳に入れていないか、確認してもらいましょう。



コイン形リチウム電池は直径2cmと大きいので、飲み込むと途中でひっかかる危険性が高くなります。また、起電力もボタン電池の2倍で、体の組織が早く壊れます。



子どもの事故を防ぐ5つのポイント

1. 使用中は子どもを意配する。

- ・電池ボックスのフタやネジはしっかりとめておく。
- ・電池ボックスのフタにネジがないなど、電池が簡単にはずれる器具を子どもに触らせない。
- ・電池の交換は子どものいないところで行う。

2. 使ったあとはきちんと片付ける。

- ・石油製品は、子どもに見えないところ、子どもの手の届かないところに保管する。
- ・使用済みの電池は、+極と-極にテープを貼り、自治体の指示に従い速やかに廃棄する。

3. 保管方法を工夫する。

- ・子どもの成長に合わせて保管場所を変える。
- ・引きだしや扉には安全グッズをつけるなどして、開けられないようにする。

4. 対象年齢を守る。

- ・玩具に表示された対象年齢を守る。
- ・大人の目の届く範囲で遊ばせる。

5. 危ないものを子どもに教える。

- ・2歳を過ぎたら、ボタン電池、コイン形リチウム電池を口や鼻に入れてはいけないことを教える。
- ・上の子には弟や妹が誤って口に入れる危険があることを教える。



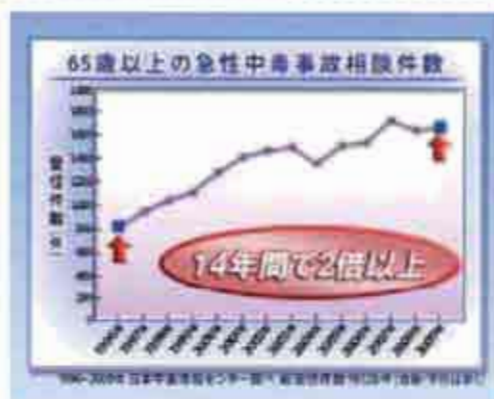
家庭用品等による 中毒事故を防ぐために



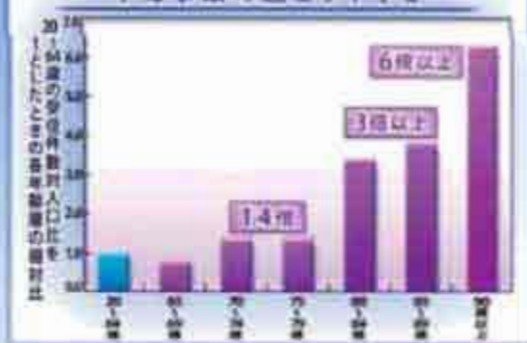
高齢者の中毒事故にご注意ください。



中毒事故の電話相談を365日24時間受けている「日本中毒情報センター中毒110番」によると、65歳以上の急性中毒事故の問い合わせは、この14年間で2倍以上に増加しています。



中毒事故の起こりやすさ



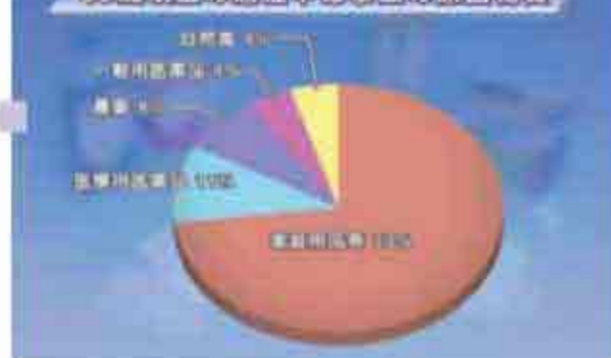
高齢になるほど、 中毒事故の発生は多くなる。

20歳～64歳とくらべて、70歳代では1.4倍、80歳代では3倍、90歳以上では6倍にも！

高齢者の急性中毒事故の7割は、 家庭用品等によるもの

入れ歯洗浄剤、ポータブルトイレ用消臭剤、乾燥剤、保冷剤、芳香剤、食器用洗剤など

65歳以上の急性中毒事故の原因物質



医療機関への通院調査で把握した
65歳以上の急性中毒事故



高齢者の中毒事故は、 症状が重くなる傾向にある

医療機関を受診した高齢者の約3割が入院し、1割に肺炎や虚脱などの重い症状がみられました。

● 思い込みによる中毒事故

高齢者は食品と思い込んで、家庭用品を食べてしまうことがあります。見た目が似ている芳香剤をゼリーと、乾燥剤や保冷剤を調味料やシロップと、食器用洗剤をジュースや油と間違える事故が多く発生しています。



ラベルがよく見え
おいけど...

味が、よくわから
おいけど...



高齢者は視覚や味覚の衰えなどにより、事故が起こりがちです。

注意!!

紙おむつや芳香剤の高吸水性ポリマーは、食道や腸をふさいだり、窒息を起こす危険性が、石灰乾燥剤は発熱して化学的なやけどを起こす危険性があります。

● 移し替えによる中毒事故

燃料やガソリン、仕事で使う薬品などをペットボトルなどの食品容器に移し替えたり、冷蔵庫に保管したりして、食品と間違える事故も多く起こっています。



注意!!

家庭用品等、特に石油製品を誤飲したときに、あわてて吐かせるのは危険です。吐いたものが気管に入り誤嚥性肺炎を起こす危険性があります。



高齢者の事故を防ぐポイント

1. 思い込みによる事故を防ぐために

- ・食品、薬、それ以外の物は分けて保管する。
- ・入れ歯洗浄剤とトローチなど、取り違えやすいものは一緒に置かない。
- ・使う前に必ず製品と表示を確認する。
- ・高齢者のまわりに食品と間違えそうな化学製品を置かない。

2. 移し替えによる事故を防ぐために

- ・食品以外の物を食品容器に移し替えない。
- ・冷蔵庫に食品以外の物を入れない。

